

マイクロソフトライセンスアップデートについて

IT資産管理評価認定協会

上原哲哉

(株式会社ライセンシングソリューションズ)

本資料記載の内容は調査時点での公表情報を元に作成されています。他ライセンス情報と同じく、クラウドサービスも日々サービス内容は更新されていますので、参考情報としてのご認識をお願いいたします。

マイクロソフト最新情報Update①

米国時間2018年9月6日、マイクロソフト社がBlogにてWindows OSのサポート期限について、下記の発表を行いました。

1. Windows 7について有償での延長サポートを2023年1月まで提供
2. Windows 10 Enterpriseのサポート期間について従来の18ヶ月から30ヶ月へ延長
3. Office 365 Pro Plusの利用について、Windows 8.1は2020年1月10日まで、Windows Server 2016は2025年10月まで延長

今回のこの発表は多くのユーザーにインパクトのある変更内容だと考えます。一つ一つ発表内容を解説いたします。

Windows 7について有償での延長サポートを提供①

多くの組織でまだまだ利用されているWindows 7は2020年1月14日に、延長サポート期限を迎えます。

既にWindows 10への移行が完了、または進めているユーザー組織は多くあると思いますが、一方Windows 7環境からの移行がすぐには難しく、Windows 10への移行がなかなか進んでいない組織もあるかと思えます。

これに対してのホワイトナイトのような内容として

「Windows 7について有償での延長サポートを2023年1月まで提供」

が発表されました。

2020年1月14日までは、残り約15ヶ月ですので、発表通り2023年1月まで延長されれば、まだ4年強Windows 7を現行のまま使えることとなります。新しいOSへの移行が遅れていた組織にとっては朗報とも言えます。

Windows 7について有償での延長サポートを提供②

しかしながら、当然ながらこの「朗報」はタダ（無料）ではありません。更に発表のBlogではこのWindows 7 Extended Security Updates（以下ESU）の価格についての発表はまだありません。

その記載では、

- 1. 有償であること**
- 2. 年々価格は上昇すること**
- 3. Windows OSの有効なSAや、その他の有効なSubscription契約を持っている人にはディスカウント＝値引きを提供するということ**

の3点です。価格は発表されていないにも関わらず、「年々その価格は上昇します」という記載は怖いですし、ユーザー組織としてももちろん気をつける必要があるかと思えます。

Win10 Entのサポート期間について従来の18ヶ月から30ヶ月へ延長①

現在Windows 10の半期チャネルモデル（SAC）はリリースから18ヶ月間のみサポートを提供されています。これがWindows 10 Enterpriseについては30ヶ月までサポート期間を延長するという、これまた「朗報」のように聞こえる発表です。

最も注意が必要な点としては、30ヶ月間へ変更されるのはWindows 10 Enterpriseと教育機関向けのWindows 10 Educationのみが対象という点です。

つまり通常多くの組織で利用されるWindows 10 Professionalは対象外であり、従来どおり、該当するWindows 10バージョンのリリースから18ヶ月がサポート期間になりますので、その間により新しいWindows 10のバージョンにアップグレードする必要があります。

Win10 Entのサポート期間について従来の18ヶ月から30ヶ月へ延長②

Windows 10 Enterpriseを利用するためには、Upgrade/SAライセンスや、Enterprise Upgradeライセンスの購入等が必要となり、そのコストは通常PCハードウェア調達時に含まれていることが多いProfessional版の価格に対して、追加で1台あたり数万円のコストがかかることとなります。

またもう1つ注意する必要がある点として、年2回予定のアップデート予定（3月および9月）の内、9月のリリース分のみが30ヶ月間サポートとなる、と記載されている点です。

まとめると、

- **対象はWindows 10 EnterpriseとWindows 10 Educationのみ**
- **Win 10 Ent/Eduについては、過去リリース（バージョン1607, 1703, 1709, 1803）についても30カ月サポートが提供される**
- **年2回の3月と9月リリースの内、9月リリース版のみ30ヶ月間サポートなる**

となります。

Office 365 Pro Plusの利用について

2018年2月に行われたマイクロソフト社の発表において、Windows 8.1、Windows Server 2012, 2012 R2, 2016、及びWindows 10 LTSC/LTSC上で、Office 365 Pro Plusが使えるのは2020年10月まで、とありました。

今回の発表ではこの内、Windows 8.1とWindows Server 2016について、Office 365 Pro Plusの利用期限が延長されました。

Windows 8.1	2023年1月10日まで
--------------------	---------------------

Windows Server 2016	2025年10月まで
----------------------------	-------------------

Windows 8.1を標準OSとしている組織や、Windows Server 2016上でOffice 365 Pro Plusのインスタンスを利用している組織にとってはメリットのある変更と考えられます。但し、今回の変更案内ではWindows 10 LTSC/LTSCや、Windows Server 2012については言及されておりませんので、現在の発表情報としては、それらのOS上でのOffice 365 Pro Plusの利用期限は2020年1月14日まで、となっております。

2018年10月からの価格改訂①

マイクロソフトは2018年7月25日に公式ブログにて価格改訂における下記の発表を行いました。

2018年10月からの改訂なので、すでに改訂は実施されている内容ではありますが、重要な点であるのでサマリを記載いたします。

1. MPSA、Select Plus、EA/ESAにおけるレベルA値引きの撤廃

これまではOpenライセンスより上記プログラムのレベルA購入の方が、価格設定上は安価でしたが、今回の発表により、購入数量が2,400ライセンス未満の組織向けの値引きは無くなります。MPSAやSelect Plus等の都度購入プログラムでも、今までレベルAにて購入していた組織にとっては値上げとなりますが、特にエンタープライズアグリーメントなどの包括系契約を行っている組織で、レベルA（契約数量2,400ライセンス未満）契約の場合、契約を更新する際には値上げの可能性が高くなります。

2018年10月からの価格改訂②

2. オンプレOffice 2019、CAL、サーバー製品の値上げ

2018年7月の英語版Blog発表ではオンプレ版のOffice 2019について10%の値上げをする、という点がまずありました。またその他の主要製品でもあるCore CALとEnterprise CAL、更にはサーバー製品の値上げもする、との発表でした。Office 2019以外の値上げ%についてはまだ発表されておりませんが、オンプレ系の主要製品はほぼ全てが値上げされる、と見て間違いなさそうです。

また今回Windows Server 2019とそのCALについての個別の言及はありませんでしたが、本年2月の同じくBlog発表では、Windows Server CALの価格について非常に高い確立で) 値上げするとありました。Windows Server CALについては大きく3種類、そしてデバイスCALとユーザーCALと2タイプありますので、全部で6種類のCALがあり、これらすべてが価格改訂されるのか? については確認が必要です。

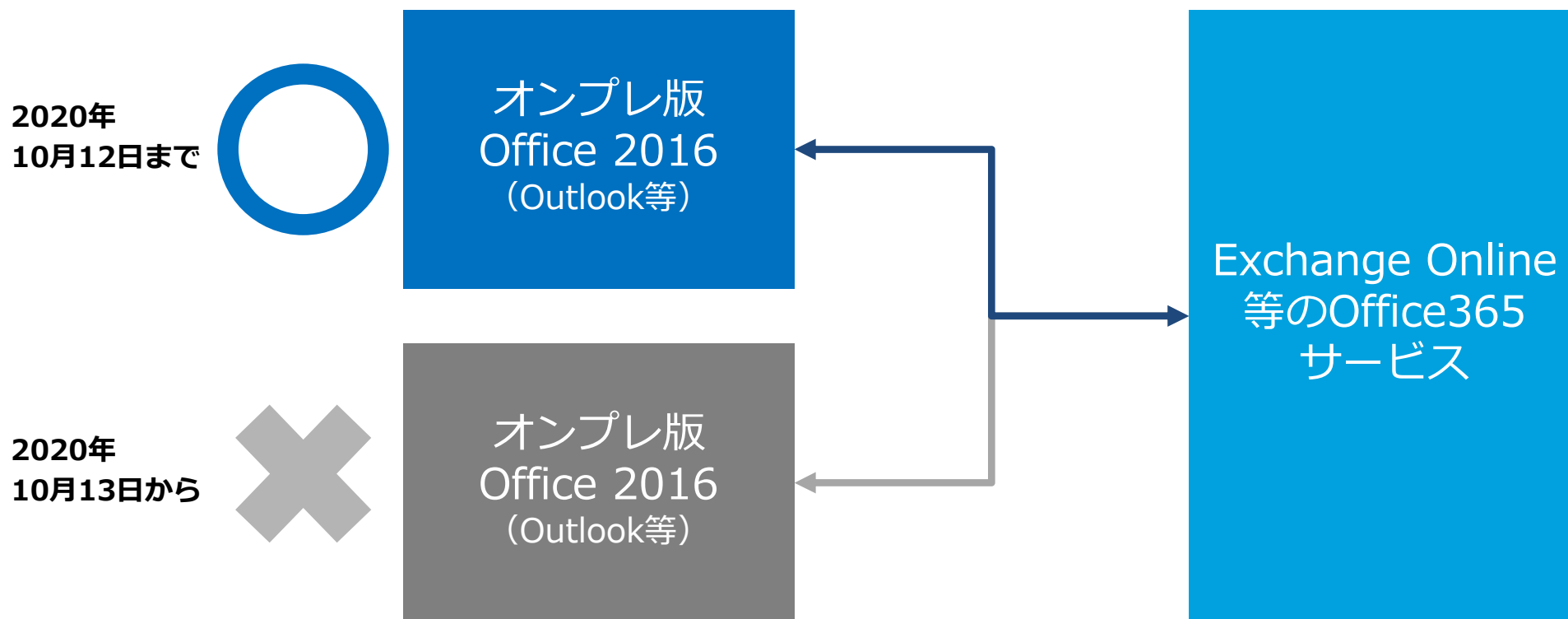
※ここで発表された内容は米マイクロソフトからの情報であり、日本での実売価格の上昇率を確定するものではありません。

Office 365サービス接続要件

2017年4月発表情報

2017年4月20日のOffice Blogにて、Office365サービスへ接続するオンプレ版のOfficeについてのアップデートが発表されました。

これは2020年10月13日より、Office365サービスに接続できるクライアントの要件をOffice 365 Pro Plusまたはメインストリームサポート中のオンプレミス版Officeのみとなるものです。

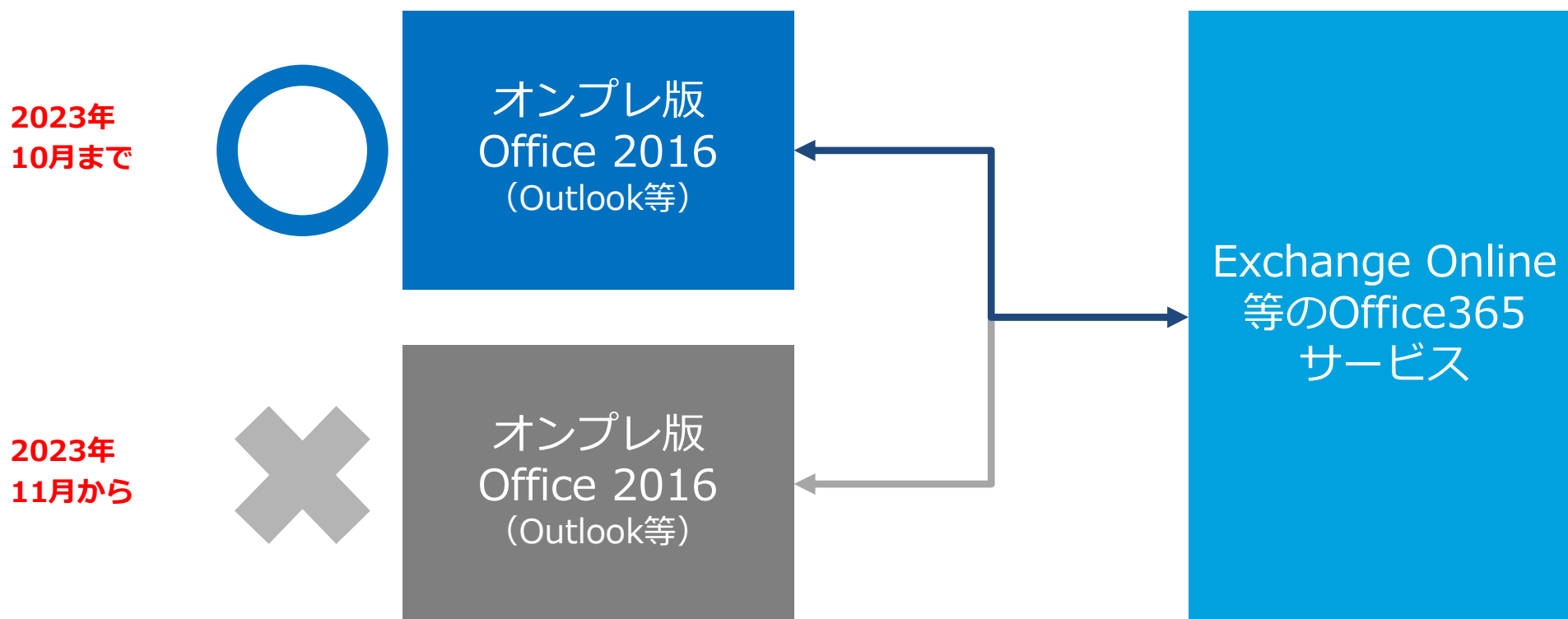


Office 365サービス接続要件

2018年9月発表情報

2018年9月6日（US時間）のMicrosoft 365 Blogにて、Windows 7やWindows 10のサポート期間延長についての発表の最後に、昨年発表されていたオンプレ版Office 2016製品からOffice 365サービスへの接続期限の3年延長が発表されました。

特に日本の多くの組織においては、オンプレ版のOutlookを利用して、Exchange Onlineへ接続する利用方法が多く見られますので、このようなケースにおいてオンプレ版のOffice 2016の延命利用という点では有利な変更と考えられます。



Windows Server 2008 / SQL Server 2008のサポート期間延長

2018年7月のパートナーカンファレンス開催に併せて下記が発表されました。

延長サポート期限

Windows Server 2008	2020年1月14日
SQL Server 2008	2019年7月9日

これらWindows Server 2008、及びSQL Server 2008について下記を満たせば最大3年間サポートが延長されます。

- Azure上に移管すれば現行バージョンで利用可能
- オンプレ延長利用は追加ライセンスコストが必要
- 3年間の延長が可能との発表



一般社団法人IT資産管理評価認定協会